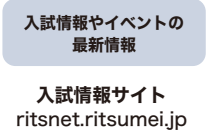




Outline

設置学科	グローバル教養学科	
取得学位	立命館大学（RU）：学士（グローバル教養学） オーストラリア国立大学（ANU）：学士（アジア太平洋学）	
入学時期	4月／9月	
キャンパス	4月入学	Semester 1, 2, 3, 6, 7, 8：RU 大阪いばらきキャンパス Semester 4, 5：ANU Acton Campus（キャンベラ）
	9月入学	Semester 1, 2, 3, 4, 7, 8：RU 大阪いばらきキャンパス Semester 5, 6：ANU Acton Campus（キャンベラ）
修業期間	4年間	
入学定員	100名 （ANUで履修を開始する10名を含みます）	

Information



CONTACT

立命館大学 グローバル教養学部教育課程G OIC事務室
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150 / Email: glapost@st.ritsumeai.ac.jp / Tel: 072-665-2492

・ Publication Version [June, 2025] 本冊子に掲載されている内容は発行時のものです。最新の情報は GLA のホームページをご確認ください。ritsumeai.ac.jp/gla/
・ 本冊子の内容は、立命館大学グローバル教養学部で募集する学生を対象にした情報です。

College of Global Liberal Arts

立命館大学 グローバル教養学部



Australian
National
University

2026

Study in Japan and Australia

That's why GLA

グローバル教養学部（GLA）体験記

日本とオーストラリア、
両方の大学生活を思いっきり楽しみました。

池谷 咲来 さん グローバル教養学部 卒業生
加藤学園暁秀高校出身

GLAに入学した理由

幼稚園の頃から英語を学ぶことが好きで、長年かけて培ってきた英語力を活かせる大学を探していました。授業、アルバイト、サークルといった日本の大学生活を楽しんでみたいと思いながらも、就職など将来の選択肢の幅を広げられるように海外大の学位が取れる留学にチャレンジしてみたいという気持ちもありました。また、高校生のとき、大学で学びたい分野を1つに決められなかったため、幅広い分野から色々と学べるリベラル・アーツに魅力を感じていました。GLAは、私のすべての夢が叶えられる場所であり、さらに世界トップレベルの大学であるオーストラリア国立大学(ANU)とのデュアル・ディグリー・プログラムを実施している学部なので、入学したいと思いました。

GLAの学びの醍醐味

GLAには、アジア、中東、北米、欧州などの様々な国・地域から来た留学生がたくさんいます。多様な背景をもつ留学生と、チュートリアルでのディスカッションを通して、自分とはまったく違う意見を知ることができたので、とても新鮮でした。このような貴重な機会に出会うたびに、異なる視点や異文化を尊重する大切さを強く感じ、また他人の意見を柔軟に受け入れる姿勢を身につけるきっかけになりました。また、国際寮(OICグローバルハウス)に住んだことで、授業以外の場でも留学生と自然と交流ができました。授業やアルバイトを終えて寮に戻ると、寮生たちが集まっていて、にぎやかな雰囲気なかで一緒に食事をしながら色々な話ができることも、GLAの醍醐味でした。さらに、ダイビングサークルにも所属し、他学部の学生と日本語で交流することも楽しみました。オーストラリア留学から帰国した後は、立命館大学でANUの授業を受講しました。日本とオーストラリアで、様々な国からの留学生と交流し、国際的な視野が広がる日々を過ごすことができました。

受験生へのメッセージ

私は、GLAで身につけることができる、物事を様々な視点で考える力や異なる意見を受け止める力を活かして、将来は日本と世界をつなぐ国際的な仕事につきたいと思っています。今、大学で何を学びたいかを決められなくても大丈夫です。柔軟に行動することで、少しずつ未来が見えてきます。



世界の国々を橋のようにつなぐ
“Global Citizen”になることが、人生の目標です。

鈴木 公一朗 フェデリーコ さん グローバル教養学部 卒業生
イタリア国立アインシュタイン高校出身

GLAに入学した理由

イタリア人の父と日本人の母を持ち、20年間ミラノで生活してきました。高校卒業後は、もうひとつの故郷である日本に行き、慣れ親しんだ英語を使って勉強できる大学に進学したいと思っていました。また将来、自分で何かビジネスをしたいと思っていて、ビジネスで成功した多くの人たちが学んでいるリベラル・アーツに興味がありました。この2つが叶えられる大学を探していたところ、世界トップレベルのひとつであるANUとのデュアル・ディグリー・プログラムという、他の大学にはないリベラル・アーツの学びを提供するGLAに出会いました。日本だけでなく、オーストラリアにも留学ができ、生まれ故郷のヨーロッパに加え、アジアやオセアニアの文化や歴史を学び、実際に体験できることも魅力的で、入学を決めました。

GLAの学びの醍醐味

GLAの授業は、講義とディスカッションで構成され、少人数で実施されました。講義は、教授から新しい知識を得る場です。ある分野の課題のテキストを読んでいるとき、イタリアで学んだラテン語の知識がヒントとなることが多く、イタリアでの経験が活かされました。また、講義で得た知識と自分の考えを掛け合わせて新しい意見を生み出し、さらに、様々な国から来ているクラスメイトとのディスカッションを通して、自分とまったく違う意見を知ることができ、物事の捉え方が一気に広がりました。ANUの授業も、同じようなスタイルでしたが、ANU生の知識量、思考力ともにとてもレベルが高く、ディスカッションもハイレベルだったので、いつも全力で取り組んでいました。自分の実力を世界で試し、とても良い刺激を受けることができました。

受験生へのメッセージ

私は、イタリアとGLAでの経験を通して、世界の国々を橋のようにつなぐ“Global Citizen”になることが、人生の大きな目標です。みなさん、目標や夢を叶えるためには、普段から色々なことに興味を持ち、できる限り多くの情報を集め、そして、実際に行動することが大事だと思います。楽しみながら、頑張りましょう！

Graduate with 2 degrees from 2 universities



History

120+
Years

Global Network

474 Universities
and Institutions
in 81 Countries
and Regions

2900+

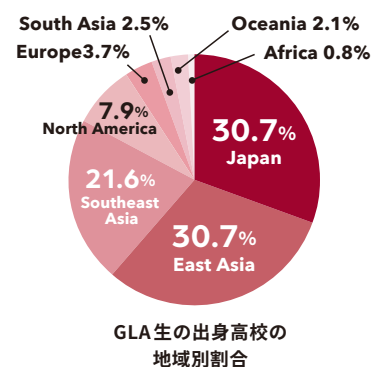
International
Students

Ritsumeikan University

立命館大学(RU)は、創始150年・学園創立120年以上の長い歴史と伝統をもつ私立総合大学です。京都・滋賀・大阪にキャンパスを構え、社会科学・人文科学・自然科学にまたがる16の学部と21の研究科をもち、学生数は約38,000人です。全世界81カ国・地域、474校の大学と留学協定を締結しており、約3,000人(2024年現在)の留学生が集っています。また、海外の大学と立命館大学の両方で学ぶ学部・学科や全ての科目を英語で学ぶ専攻など、新たなグローバル教育を展開しています。立命館大学には、文化や言葉の違いを超えて世界の人々と協働する力、世界にイノベーションを生み出すことのできる力を育む環境があります。



College of Global Liberal Arts



グローバル教養学部(GLA)は、2019年4月に大阪いばらきキャンパスに開設された学部です。名門オーストラリア国立大学(ANU) College of Asia and the Pacificと連携し、4年間でRUとANUの2つの学位取得を目指す、デュアル・ディグリー・プログラムを実施しています。RUでは、文理にまたがる幅広い知識を実際の社会の発展に役立てていく具体的な方法論としてのリベラル・アーツを、ディスカッション・ベースの実践的な方法で徹底的に鍛えます。ANUでは、世界中から集う優秀な学生とともに、アジア太平洋の国際関係学を専門的に学びます。GLAは、世界中から集まった学生みなさんのグローバル・キャリアを、全力で応援します。

The Australian National University



ANUは、1946年に設立されたオーストラリア唯一の国立大学であり、世界が直面する課題解決に重きを置く、研究集中型の大学です。各種世界大学ランキングで上位に格付けされており、オーストラリア首相やノーベル賞受賞者等、数々の著名人を輩出していることでも有名です。ANUのメインキャンパスは、オーストラリアの首都キャンベラの中心地にあります。自然美あふれる公園のような美しいキャンパスで、約4,500名(2023年現在)の留学生が在籍し、研究に励んでいます。

ANU College of Asia and the Pacific

GLAのパートナーであるANU College of Asia and the Pacificは、アジア・太平洋地域研究のスペシャリストが数多く集まる、英語圏で最大規模の研究拠点です。オーストラリア国内の公共政策に関する専門知見を提供するだけでなく、アジア・太平洋地域の社会・文化・経済に関する知の資源として重要な役割を担っています。また、GLA生の留学先であるCoral Bell School of Asia Pacific Affairs(通称: Bell School)は、卓越した研究力と教育力で、世界やアジア太平洋地域の政治学、安全保障、外交、戦略立案に関する研究、教育、政策分析で世界をリードしています。



Australia's
Leading
University

#8

in the World
for Politics

*QS World University Rankings
2024

#30

in the World

*QS World University Rankings
2025

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

RU

ANU

THE AUSTRALIAN NATIONAL UNIVERSITY

Define yourself and make a difference to the world

英語を話すその先へ、世界を変える「私」になる ために。

Global Citizen

KEY FEATURES

オーストラリア国立大学(ANU)との デュアル・ディグリー・プログラム(DDP)

立命館大学(RU)はANUのCollege of Asia and the Pacificと提携し、全て英語による4年間の授業を通じて両大学の所定の条件を満たし単位を取得すると、卒業時にRUの学士(グローバル教養学)とANUの学士(アジア太平洋学)の2学位を取得できるプログラムを提供しています。4月入学の場合は2回生の秋学期から3回生の春学期まで、9月入学の場合は3回生でANUに留学予定ですが、留学前後のセメスターでは、大阪いばらきキャンパス(OIC)でRUとANUの授業を同時に受講します。なお、2回生から始まるANUの科目を履修するためには、ANUによる入学審査を受ける必要があります。

知識を活かすための知の技法を学ぶ、世界に通ずるリベラル・アーツの学び

RUのカリキュラムでは、「リベラル・アーツ」の名のとおり、文理にまたがるさまざまな学問の基礎を体系的に学びます。哲学や歴史学、政治学、経済学、社会学、カルチュラル・スタディーズ、国際関係論、情報工学、経営学、デザイン学、心理学、持続可能な社会、教育学、障がい学、言語学などの学びを通じて、知識を社会発展や問題解決に活用するための力を徹底的に鍛えます。

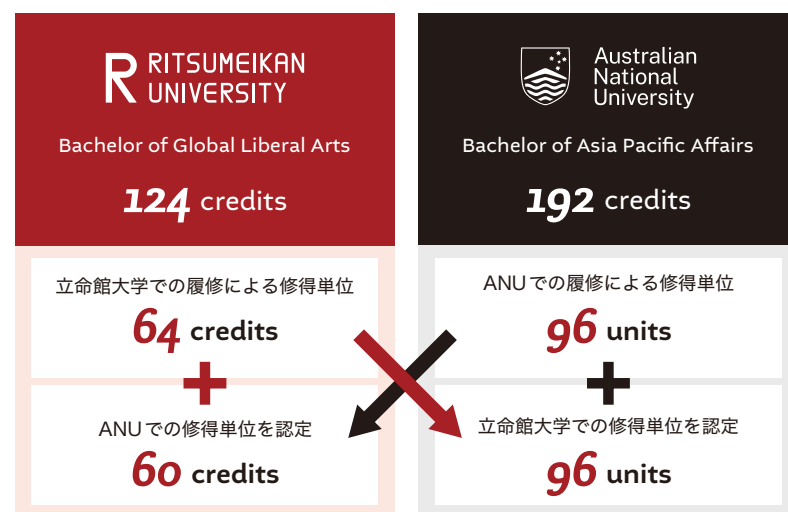
哲学	歴史学	政治学	経済学	社会学
カルチュラル・スタディーズ	国際関係論	情報工学	経営学	デザイン学
心理学	持続可能な社会	教育学	障がい学	言語学

ANU College of Asia and the Pacific による アジア太平洋地域の専門的な学び

ANUのカリキュラムでは、ANU College of Asia and the PacificのCoral Bell School of Asia Pacific Affairs(通称：Bell School)が提供するアジア太平洋地域に関わる科目分野を履修します。Bell Schoolは、卓越した研究力と教育力で、世界やアジア太平洋地域の政治学、安全保障、外交、戦略立案に関する研究、教育、政策分析で世界をリードしています。

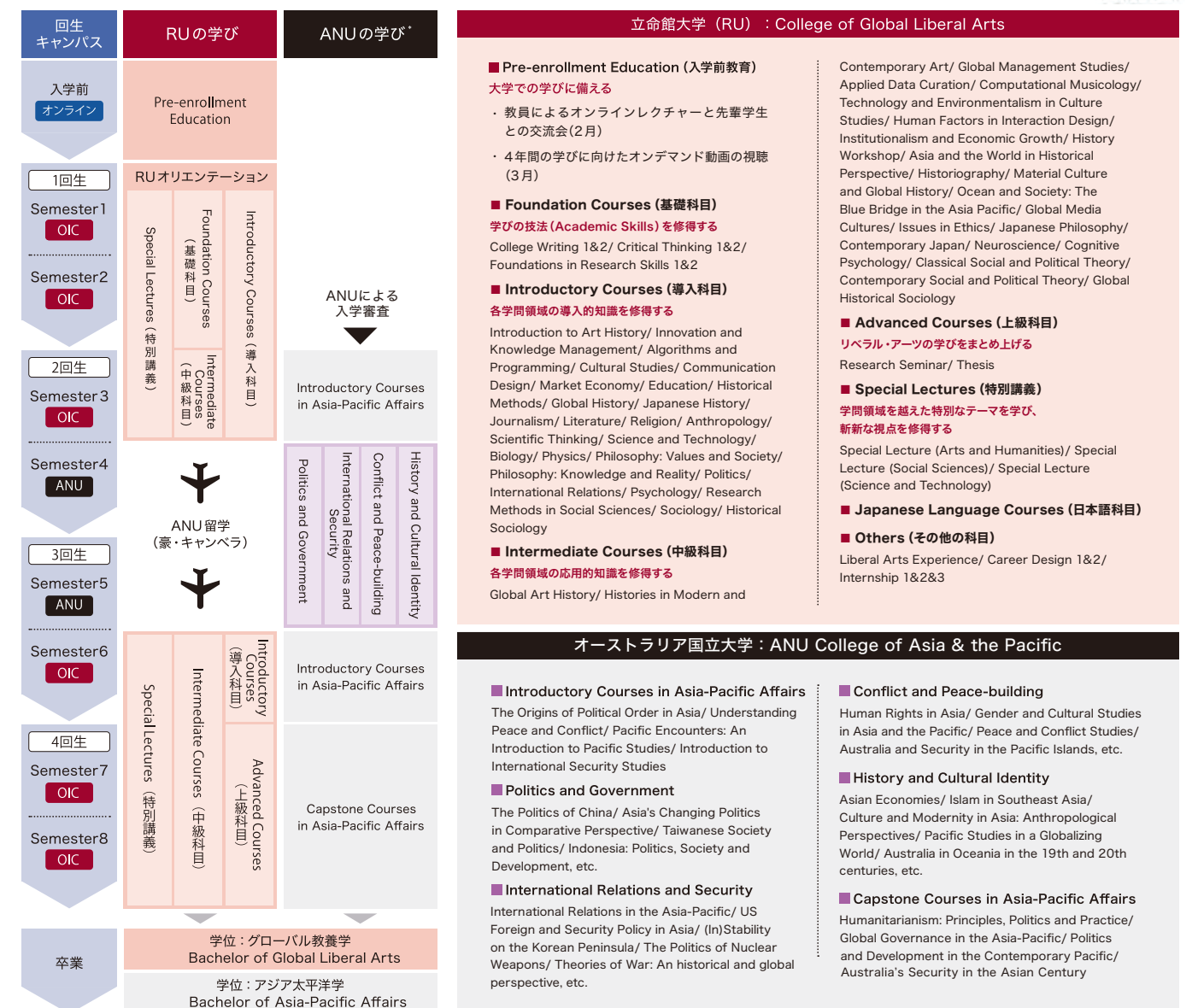
4年間で2つの学位を 取得する

一般的に、RUの学位を取得するためには最低124単位、ANUの学位を取得するためには192ユニットを修得する必要があります。しかし、両大学間の協定により、本プログラムでは、RUの授業で修得した64単位がANUの96ユニットとして認定され、ANUの授業で修得した96ユニットがRUの60単位として認定されます。この仕組みにより、学生はRUの授業64単位ANUの授業96ユニットを修了することで、4年間で、学士(アジア太平洋学)と学士(アジア太平洋学)を取得することができます。



CURRICULUM

グローバル教養学部の学びの流れ** [4月入学の場合の例]



**ANU TEQSA Provider ID: PRV12002 (Australian University) | ANU CRICOS Provider Code: 00120C

ANUによる入学審査

立命館大学(RU)に入学後、32単位の受講を終えた学期末(原則として2セメスター目の終了時)に、「英語要件」と「成績要件」(右記参照)を満たしている学生は、ANUによる入学審査を受けることができます。入学が許可された場合、ANU科目の履修を開始することができ、引き続き、両大学の学位取得を目指します。ANUによる入学審査は、立命館大学在籍中に1回のみ実施され、要件を満たしていない場合およびANUによる審査により不合格となった場合は、シングル・ディグリー・トラックであるRU専攻において、RUの学士(グローバル教養学)の取得を目指すことが可能です。

英語要件：

ANU入学審査時に適用されるANUポリシー「English language admission requirements and post-admission support」に定められた英語要件を満たしていること。

成績要件：

RUにおいて、GPAが2.00以上であること。

「英語要件」と「成績要件」の詳細は、グローバル教養学部ウェブサイトでご確認ください。▶



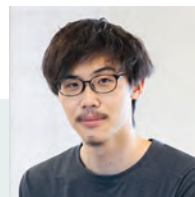
・詳細はANUウェブサイトでご確認ください。



Learning at GLA

GLAの代表的な 5つの学びのスタイル

卒業後の進路を見据えて、文理にまたがる様々な科目を選びながら、自分に合った学修スタイルをテイラーメイドで編み出していくことができます。



少人数授業でのディスカッションで、批判的な思考力が身についた。

鈴木 碧天 さん グローバル教養学部 2回生
加藤学園暁秀高校出身

幼い頃海外に住み、日本語より英語の方が得意な私にとって、すべての授業が英語で行われるグローバル教養学部はとても魅力的でした。また、少人数で授業が受けられることも志望の大きな理由となりました。実際に、これまで受けた授業の人数は、7人から20人程度。そのため、ディスカッションの機会が多く、先生は学生一人ひとりの到達レベルを理解した上で、丁寧な指導をしてくれます。これは大人数のクラスでは得られないメリットだと思います。

今一番関心を持っているのは、国際関係についてです。“Introduction to politics”や“Introduction to International relations”などの授業を受けています。将来、仕事にしたいと考える分野を深く学びつつ、興味のあることを広く学べるのも、この学部の魅力だと思います。授業では、自分の考えを発言する機会が多くありますが、その都度先生が反論を

提示してくださるので、次に私は、先生の反論内容のどこに問題があるのかを別の見方から考え、述べることになります。こうした学びを通して、物事に対する批判的な見方が身につきました。政治学や国際関係学のさまざまな思想を学ぶ際にも、それぞれの思想にはどのような問題があるかを考え、自分の意見として述べる機会があるので、よりクリティカルな観点で物事を見ることができるようになったと感じています。

将来は、外交官、もしくは発展途上国が直面する貧困や武力などの問題を解決し、多くの人々を助けることができる仕事に就きたいと考えています。大学のキャリアセンターでこれらの仕事に関連するセミナーに参加し、具体的な仕事内容などを学んでいます。広い視野を持って、さまざまな意見や経験談を聞き、進路選択の参考にしています。



Career

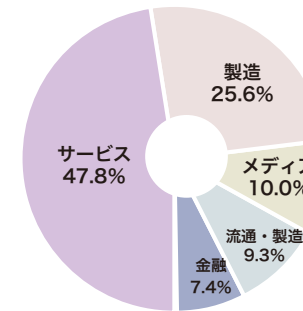
自分らしく、世界で活躍する。

英語によるリベラル・アーツの学びを通して、圧倒的な英語力、幅広い教養、そして社会を良くするための課題発見・解決力が養われます。それらの力を身につけたGLA生は、卒業後は国内外のグローバルに展開する大手企業（IT企業、商社、広告代理店、コンサルタント等）への就職や、オーストラリア国立大学やアメリカ等の世界有数の大学院へ進学しています。大学院で専門性を高めることにより、政府機関・国際機関やNGOなど、世界で活躍するグローバル・キャリアへの道が大きく開かれるでしょう。

卒業生
就職・大学院
進学状況

大学院進学率
15.5%

- 2022年度・2023年度卒業生の実績にもとづき算出。
- 端数の関係で100%にならない場合があります。



就職先一例

アクセンチュア（株） アマゾンジャパン合同会社 アルファサイツ株式会社 伊藤忠商事（株）
岡三証券（株）オリックス（株）（株）クボタ ジャパンマテリアル（株） 上海商業銀行有限
会社 シンガポール航空会社 スイスポートジャパン（株） ソフトバンク（株） テルモ（株）
デジタルアーツ（株）（株）電通 東海東京フィナンシャル・ホールディングス（株）長瀬産業（株）
日本通運（株）日本郵船（株）（株）プログリット メルセデス・ベンツ日本（株） ロバート・
ウォルターズ・ジャパン（株）

大学院進学先一例

オーストラリア国立大学 ジョージタウン大学 ソウル国立大学



GLAで培ったグローバルな人間力や思考力は、
人生の財産です。

桂 萌乃 さん
株式会社電通 ラジオテレビ局
（グローバル教養学部 グローバル教養学科 及びオーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 2023年卒）

4年間でRUとANUの2つの学位を取得するGLAのデュアル・ディグリー・プログラムの学びは大変でしたが、厳しい状況に置かれながらも、常に成長を続けられる人間力を養えたことや、グローバル・スタンダードの様々な授業を受講したことで、世界の出来事を多角的に考える力が身に付いたことは、人生の財産となりました。卒業後は、哲学の授業で深く学んだ「好きという純粋な気持ちを大事にして人生を選択する」ことを妥協なく追求し、幸せな未来を創造していきたいです。



本質を理解する力を強みに、
興味のある分野に積極的に挑戦していきたい。

脇坂 純 さん
オリックス株式会社 輸送機器事業本部 航空事業グループ
（グローバル教養学部 グローバル教養学科 及びオーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 2024年卒）

大学時代、記憶に残っているのが、ANUの「Global Governance in the Asia Pacific」という授業です。ESG（環境・社会・ガバナンス）やAI、政治、国際紛争など一見関連性がない事柄が、実際には深く結びついていることを学びました。また卒業論文では中国の「双循環戦略」について研究し、日本経済政策学会での発表も経験しました。学びや研究を通じて培った異なるバックグラウンドを持つ人とのコミュニケーションスキルや物事の関連性を考え本質を理解する力は、今の業務にも活かしています。今後も興味のある分野に積極的に挑戦し、新しいことを学び続けていきたいです。



WATCH ON
YouTube

立命館大学 International Admissions YouTubeチャンネルで、学部紹介や卒業生インタビューの動画をご覧ください。





Live & Learn

OIC Global House for GLA students



赤坂 飛奏 さん
グローバル教養学部 2年生
ニュージーランド・
Garin College出身

多国籍の寮生との交流を通して、 コミュニケーションスキルがアップしました。

OICグローバルハウスの魅力は、多国籍の人たちと交流できるところです。共に生活する中で、習慣や文化の違いに自然と触れ、異文化への理解が深まることに加えて、異なるバックグラウンドや価値観を持った人々と日々接することで、視野が広くなり、コミュニケーションスキルが向上しました。語学の上達にとってもよい環境なのは、言うまでもありません。私は中学2年生の2月から高校卒業までの4年間、ニュージーランドに留学していたので、英語力は身につけていますが、寮での会話、グローバル教養学部でのすべて英語による授業、英語での課題提出などによってさらに鍛えられ、留学時よりも伸びていると感じています。

また、立地のよさもこの寮のメリットです。キャンパス内にあるので教室が近く、駅にも近く、スーパーやショッピングモールも近くにあって、買い物にも便利。自炊することが多いので、この点でも助かっています。キッチンや多目的室、ランドリーなどは共用ですが、寮生はそれぞれ個室に住んでいるので、適度なプライバシーが保たれており、自分のペースで暮らせています。とはいえ、共同生活ですから周りへの気遣いも必要です。多様な人たちと同じ空間に暮らす経験を通して、自分を律する自己管理能力も向上したと思っています。

キャンパス内の国際寮で 生活すべてが学びの場に

OICグローバルハウスは、大阪いばらきキャンパス(OIC)内に2019年に竣工した分林記念館の中にある国際寮です。グローバル教養学部の多くの学生が入寮し、「キャンパスの中で、共に学び、共に暮らす」生活を送っています。個室タイプの寮室を200室用意するとともに、茶室・日本庭園・能舞台を備えた多目的ホール等、日本文化が感じられる多様な国際交流の場を設けています。



詳細は、立命館大学ウェブサイトでご確認ください。▶



Faculty Members

教員一覧



石原 悠子
哲学、日本哲学・現象学



糸井 貴夕
応用言語学、高等教育の国際化、言語教育



小木曾 左枝子
外国語・第二言語教育、日本語教育



OZTURK U. Aytun
経営科学、経営工学、オペレーションズ・リサーチ



北野 知佳
社会言語学、ジェンダー研究、アイデンティティ研究



志村 真弓
国際関係論・国際政治学、平和研究



JOHNSON Christopher
哲学、政治哲学・公共哲学



CAPKOVA Helena
芸術学、美術史



THOUNY Christophe
比較文学、日本視覚文化、都市学



BATOOOL Saeeda
開発経済、男女格差



廣野 美和
現代中国論、国際関係論



藤田 加代子
日本史、グローバル・ヒストリー



HAIMES Paul
美学、インタラクティブアート



堀江 未来
教育学、異文化間教育・教育政策行政論



MARQUEZ Gian Powell
海洋科学、再生可能エネルギー研究



MARUTSCHKE D. Moritz
データサイエンス、教育工学、人工知能を活用した学際的研究



山岸 典子
認知心理学、脳科学



山下 恵理
障害学、フィリピン地域研究



山下 範久
歴史社会学、社会理論



RASIT Huseyin
政治社会学、社会理論

Scholarships

以下の2つの奨学金*は、デュアル・ディグリー・プログラムでANUに留学するグローバル教養学部生全員が対象となります。

立命館大学 海外留学チャレンジ奨学金

給付期間 : ANU留学時の2学期間(1年間)
金額 : 300,000円

グローバル教養学部 海外教学プログラム奨学金

給付期間 : ANU留学時の2学期間(1年間)
金額 : 700,000円

* 2025年度時点の情報です。入学年度により、内容が変更となる場合があります。

* これらの奨学金は併給できますが、立命館大学が定める他の奨学金とは併給できない場合があります。

Fees

グローバル教養学部の授業料は、以下のとおりです。デュアル・ディグリー・プログラムでオーストラリア国立大学が実施する授業について、授業料の別徴収は行いません。ただし、渡航費・寮費・生活費等は別途必要になります。また、この他に学友会・父母教育後援会の入会金・年会費が必要です。なお、2026年度入学者の学費は変更になる可能性があります。詳細は、立命館大学入試情報サイト(学費・諸会費)でご確認ください。

学費 (2025年度入学者に適用)

(単位: 日本円)

1年次				2年次以降		
入学金	春セメスター授業料	秋セメスター授業料	年間計	春セメスター授業料	秋セメスター授業料	年間計
200,000	1,150,000	1,150,000	2,500,000	1,150,000	1,150,000	2,300,000

諸会費 (2025年度入学者に適用)

(単位: 日本円)

学友会		父母教育後援会		年間計
入会金*	年会費	入会金*	年会費	
3,000	5,000	5,000	10,000	23,000

*学友会・父母教育後援会の入会金の納入は、入学年度のみです。

立命館大学入試情報サイト
(学費・諸会費) ▶

